

あかり

AKARI

新任のご挨拶

セミナー報告、認定看護師
検査ミニ知識、小児慢性特定疾患治療事業の紹介
リハビリテーション科
療育指導室
再来診療のご案内、医療連携室
はじめて当院を受診される方へ
当院へのアクセス、イベント情報、本

看護師さんを募集しています

新任のご挨拶

4月より院長を引き継ぎました井上です。当院は今後も神経筋疾患の専門病院として、病に悩む方々のために最善の医療、心のもった医療とケアを提供していきます。

最近の医学の進展は著しく、医療機器は精密さを増し、身体の内部をどんどん視覚化してくれるようになっていきます。また遺伝子などの極小の大量の情報を分析できるようにもなり、今までわからなかった病気の源への手がかりが随分得られるようになってきました。

この進展は治療にも還元され、新しい薬が開発され、新しい治療手技がどんどん工夫されています。そう遠くない将来に、今までは想像もつかなかったような治療法が登場するかもしれません。

当院ではこのような新しい診断技術や治療法は積極的に取り入れ、しかしながら十分に吟味した上で、

安全に、またわかりやすく提供していきたいと考えています。

スタッフ一同の喜びは、病をもつ人の日々の生活また将来の生活の安定と潤いに少しでもお役にたてることです。種々の立場のスタッフが、それぞれの専門性を活かしながら、人と人とのつながりを大切にしたい優しい医療とケアを心がけていきます。

病院からの情報はこの情報誌「あかり」やホームページを活用しながらお伝えし、また情報の相互交流ができるような方法を考えていきたいと思えます。

今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

(院長 井上有史)



第23回てんかん専門職セミナー報告

平成21年2月27日（金）に当センターで第23回てんかん専門職セミナーが開催されました。毎年この時期に「成人のてんかん」をテーマとして、医療・介護・福祉・教育の各分野の専門職（看護師・介護福祉士・介護支援員・生活支援員・精神保健福祉士・児童指導員・職業指導員等）の方々を対象に行っています。今年の内容は1.「てんかん診療の実際」2.「てんかんを持つ人の日常生活」3.「てんかんを持つ人の障害」の3つの講義と施設見学でした。例年のように主に県内広域の施設から、遠くは神奈川県からも受講希望があり、47名が参加されました。



講義は当センター医師、看護師、リハビリ、医療福祉相談室等が協力して行い、参加の皆様は熱心に聴講され、活発な質疑応答が交わされ、充実した一日となりました。研修後半の院内施設見学では実際の診療にかかわる質問も出て、理解を深めようとする熱意が伺われました。このセミナーをお世話したスタッフの一員として、「てんかん」という疾患がより多くの人々に正しく理解され、その診断・治療・生活支援のために当センターが利用されることを期待します。

（診療放射線技師長 野原孝司）



てんかん看護院内認定看護師養成講座開講

当院は、てんかんセンターとして全国を診療圏とし、てんかん医療を行なっています。看護部では、院内外向けにてんかん看護セミナーを年1回2日間開催しています。このセミナーによって、てんかんの診断、治療、リハビリテーション、てんかん看護について知識を深めることができました。しかし、てんかん看護認定看護師という制度はありません。

そこで今回、①てんかんに関する専門的知識を習得し、看護実践に生かす。②てんかん看護師としての役割モデルとなり、他者に指導ができる、という2点を目的として、てんかん看護院内認定看護師養成講座を

スタートしました。

1年目（平成20年度）は、てんかんに関する必要な専門的知識の習得、看護師としての役割モデルを果たすための知識の習得、指導者・教育者として必要な知識の習得などの講義17時間が終了しました。3月5日（木）に講座終了時の知識確認のための試験が行なわれ、7名の看護師が試験に臨みました。

2年目（平成21年）は成人、小児、外科実習、リハビリ実習を体験し、1年間をかけて事例をまとめ、発表します。患者様によりよいてんかん看護を提供し、指導的立場で活躍する看護師を養成していきます。



病院の理念

「安心と信頼、良質なてんかん・神経の包括医療」

看護師さんを募集しています！

- ①常勤職員：病棟勤務 夜勤有り
- ②非常勤職員（外来、B型通園）

経験の少ない方、育児等でブランクのある方でも心配はご無用です。「じっくり患者様と関わりたい」「ゆとりのある看護をしたい」とお考えの方、ぜひ当院で働いてみませんか？

相談、見学等随時お受けしております。お気軽に看護部長室までご連絡ください。

検査
ミニ知識

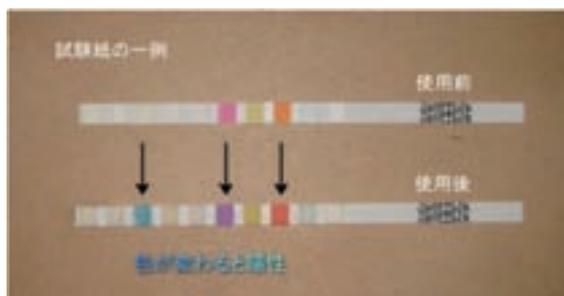
一般検査

今回は『一般検査』についてお話ししましょう。なぜこんな呼び名なのかはわかりませんが、どこの病院でも尿や便の検査を一般検査と言います。尿の検査は、尿を作る腎臓や排泄されるまでの通路・また老廃物を含んでいるので全身状態も反映され、それらの状態を確認するために行います。尿中には、蛋白質・ブドウ糖・ケトン体・赤血球に含まれるヘモグロビンなどがあり、有形成分には、赤血球や白血球などの血液細胞・腎臓や膀胱などの細胞・尿を作る腎臓内の細い管の中で固まった蛋白成分(円柱)や結晶化成分・細菌などがあります。尿中成分は、濃度に応じて色が変化する試薬を含んだ濾紙が変化した色調で大まかな濃度を調べます。それぞれの濾紙はプラスチックのテープに並んで貼り付けられており、このテープを尿に浸すことでそれらの項目を同時に調べることができます。また有形成分は、遠心分離器で試験

管の底に沈ませた沈殿物(尿沈渣)をガラス板の上に薄く伸ばし顕微鏡で観察して成分の種類と量を調べます。

便の検査は、便潜血検査という微量な血液が混じっていないかの検査や食べ物の消化状態の観察、寄生虫の卵を検出する検査などがあります。便潜血検査は消化器系の出血の有無を知ることができ、がん検診などでも使われます。その方法は、赤血球中のヘモグロビンを化学的または免疫反応で検出します。また消化状態や虫卵の検査は、便をガラス板の上に薄く伸ばし顕微鏡で観察して行います。尿や便などは色や量の異常を自分でチェックし、毎日の健康管理に役立てることが出来ます。それだけ身近なものであり、体の様々な情報を教えてくれるとても大事なもののなのです。他には腹水、胸水、髄液など体の中の様々なものでも検査をしています。

(臨床検査技師 佐倉裕二)



硝子円柱



シュウ酸カルシウム結晶

医療費を助成してもらえらる制度があります

<小児慢性特定疾患治療研究事業>

☆どんな制度?☆

小児慢性疾患のうち、特定の疾患については、その治療が長期間にわたり、医療費の負担も高額となることから、その治療の確立と普及を図り、併せて患者家庭の医療費の負担軽減にも資するため、医療費の自己負担分を補助するものです。

☆対象者は?☆

ウエスト症候群(点頭てんかん)、結節性硬化症、レンノックス-ガストー症候群、乳児重症ミオクロニー

てんかん、レット症候群などの疾患の治療を受けている18歳未満の方

(国が定める対象疾患は他約500疾患以上あります。)

☆申請窓口☆

お住まいの管轄保健所

※患者の生計を主に維持する方の所得に応じて自己負担が定められています。ただし重症と認定された方は自己負担はありません

※疾患名別で診断書の書式が異なります

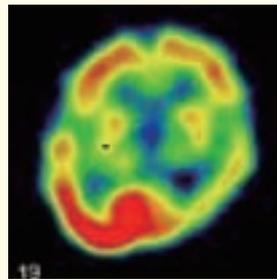
※20歳まで延長して利用可能な場合があります

発作時SPECT検査

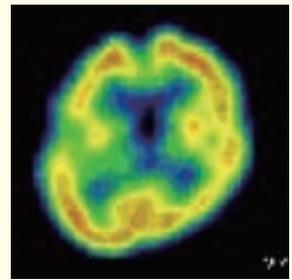
当院ではてんかん発作時のSPECT検査を行っています。手術の適応となる難治性てんかんの外科的治療においては、その焦点部位の同定が重要ですが、発作時にアイソトープを静注することにより、発作時の脳血流SPECT画像を得ることが可能です。静注後1時間以内であれば脳内分布に変化はありません。発作時に焦点部位の血流は著しく増加するとされており、焦点部位の推定に有用な検査です。また発作間歇期のSPECT画像と比較して血流増加の部位が認められた場合、焦点部位である可能性が高いと推定されます。発作が日中多い方や夜

間に多い方などさまざまですので、当院では24時間いつでも発作時SPECT検査に対応しています。

(阿部俊 撮影透視主任)



発作時



発作間歇時

おもちゃ図書館がやってきた！

小児病棟のプレイルームにたくさんのおもちゃを持って『おもちゃ図書館』のボランティアさんが月に一度遊びに来てくれます。

入院しているこどもたちは「なになに？」と目を輝かせながらプレイルームに集まり始めます。

そこにはフェルト生地のできたボールを投げて遊ぶ当てゲームや、ちいさな木のできた玉がレールに沿って転がる玉ころがし、ビニールプールの中にゴムボールがいっぱい埋まったボールプールなど普通のプレイルームにはないおもちゃがあります。

「わぁ！」とみんないっせいに気になるおもちゃにかけ寄ります。一通りおもちゃを楽しむ子もいれば、一つのことをじっくりと遊ぶ子など様々で個性を感じます。付き添いのお母さんたちもボランティアさんに教えて頂いて折り紙のコマ作りに夢中です。カラフルなコマが次々と回り始め、お母さん同士の会話もはずみます。みんなが大好きなボールプールでは、もぐったり泳いだり手足を思いっきり動かして遊ぶ子、ボールを外へポイポイと投げて遊ぶ子、ボールをみんなにかけてもらって体がボールに埋まりはしゃぐ子、いろいろな遊びを自分たちで見つけ仲良く楽しい時間をすごしています。

(A4病棟看護師 飯田英里)



REHABILITATION

リハビリテーション科のご紹介

てんかんを持つ小児のリハビリテーション ～理学療法部門～

こんにちは。静岡てんかん・神経医療センターのリハビリテーション科理学療法部門です。最近では「理学療法」なんて固い感じの呼び方よりもPT（＝Physical Therapy）と呼んで頂くことの方が多いかと思います。いずれにせよ当院のチーム医療の中で、運動療法を中心に患者様の治療に当たらせて頂く部門です。私達スタッフは理学療法士と言いますが、紛らわしい話で申し訳ありませんがこちら英語ではPT（＝Physical Therapist）となります。本欄では私達PTのてんかんを持つ小児の皆様に対する治療について触れたいと思います。よろしくお願ひします。

てんかんを持つ小児の皆様の治療に際し、お寄せ頂く声の中で一番多いのが発達に関するご相談です。そんな中、理学療法部門は『定頸（首の座り）』から『歩行』までの運動発達に関する部分について治療やアドバイスをさせて頂いています。運動発達の障害には様々なケースがありますが、いずれにしても理学療法部門ではその原因を明らかにするよう努め、具体的な解決策を医師を始めとする医療スタッフ、そして何よりご家族の方と共に導き出し、治療へ繋げて参ります。例えば、‘つかまり立ちが出来ない’というリクエストに対し、力（筋力）が足りない、足首の関節に問題があるなどの直接的な原因ばかりでなく、他職種とも情報交換した上で別の可能性も探ります。その中で、もしも認知能力の問題も有るならば医師に相談の上で同じリハビリテーション科の作業療法部門（OT部門）にもアプローチを依頼するなどチーム医療の一員として他部門との連携にも努めます。そしてこの例に限らず、医師により運動療法の必要があると判断された場合には、その指示の下で評価を行い治療も開始します。そしてご本人様に対する徒手療法や装具療法などを実施し、ご家族の方にはその説明と各種指導を行い

ます。

‘リハビリ’と聞いただけで厳しく辛いイメージを持たれる方も多いかとは思いますが、私達理学療法部門は、出来る限り明るく楽しい雰囲気、そして何よりご本人様およびご家族の方々が気軽に声をかけて頂けるような、そんな雰囲気を目指し治療を行っています。今、気を付けなければいけないこと、車椅子やバギーなど補装具のこと、ご家庭で出来るトレーニングのことなど何でも結構です。疑問に思うことがあれば治療中に是非声をかけてください。特に昨今、小児のリハビリテーションの現場では『一体、今、このメニューは何の治療なんだろう？』というご家族の方の疑問の声を多く耳にします。そんな当たり前の声を少しでも減らすべく、当院理学療法部門は今後も頑張って参ります。なお、入院・外来を問わず治療（なるべくお待ち頂かずに治療を行えるよう予約制となっております）を行っておりますので、ご希望の方は先ず当院医師にご相談ください。

そして、次回の本欄では当院リハビリテーション科作業療法部門のご紹介の予定です。そちらもよろしくお願ひします。

（運動療法主任 楠川敏章）



療育指導室便り

ウッドデッキでのスーパーライブコンサート

重症心身障害児（者）病棟では日常生活の多様化、生活空間の拡大やご家族とのふれあいの場を目的に年間を通じて様々な行事を行っています。

平成20年9月17日（水）にウッドデッキで行った「スーパーライブコンサート」について紹介します。

当日は、多くの日陰と初秋の風が気持ちよく、絶好のコンサート日和でした。

Ami☆Tame&Chooのみなさんが横浜から駆けつけてくださり、美しい歌とギターの生演奏を楽しみました。

「なごり雪」・「なだそうそう」では共に声を出して歌う患者様・楽器やうちわを振る患者様、身体をふりながらリズムを取る患者様がおり、楽しんでいる様子が伺われました。

また、英語の歌では参加者のにぎやかな手拍

子で会場は一つになりました。

Amiさんのきれいな声にTameとChooさんのギターがバッチリ合っていて最高でした。

Chooさんは重症児（者）病棟に入院されている患者様のお父さんです。

Chooさんのギターソロ演奏「大きな古時計」に口ずさむ方や「天空の城ラピュタ」に感激されている親御さんもいました。

患者様からは「いい歌やったよ」「なだそうそうの歌がよかった」「たのしかった」との感想がありました。

患者様・御家族・職員がともに楽しみ、心のふれ合いができたコンサートでした。

Ami☆Tame&Chooさんに感謝です。

本当にありがとうございました。

（主任児童指導員 大道庸子）



再来診療のご案内

てんかん科

	月	火	水	木	金
第1診察室	中村	中村	臼井桂		臼井直
第2診察室	久保田英			久保田英	松田
第3診察室	今井		井上	今井	
第4診察室		鳥取	日吉		日吉
第5診察室	池田仁	久保田裕	久保田裕	寺田	寺田
第6診察室	芳村			芳村	馬場好
第7診察室		小出			大谷
第8診察室			池田浩		
第9診察室	重松	高橋			重松

午前の診療時間は8:30-12:00 午後の診療時間は13:00-16:30

神経内科

	月	火	水	木	金
第10診察室	溝口	溝口	溝口	馬場国	溝口
第11診察室	杉浦	小尾	山崎		小尾

特殊外来

転倒予防外来	随時	溝口、小尾
物忘れ外来	随時	溝口、小尾
遺伝相談	適宜	高橋、溝口、小尾

再来診療は予約制です。予約ができない場合は午前中にお越しください。

Guidance

医療連携室のご案内

医療機関間のコミュニケーションを円滑に行うために、医療連携室（予約センター）を設置しています。ご利用ください。（平日）

電話：054-246-4580（初診）
：054-246-1065（再診）

Fax：054-246-4607

予約センターの受付時間：9:00～12:30
13:30～17:00

Email: renkei@szec.hosp.go.jp

当院では、脳波、筋電図、誘発電位、脳磁図、終夜ポリグラフ、CT、MRI、SPECTなどの検査が可能です。共同利用も可能です。上記、医療連携室にお問い合わせください。

編集後記

あかり春号はいかがでしたか。
今回も、院内の取り組みや紹介等、盛りだくさんの内容になりました。これからも、皆様へ情報が伝わりやすいことを心掛けていきたいと思っております。
あかりへのご意見や感想をお待ちしています。

編集人：広報誌編集委員会

井上有史、寺田清人、藤井千穂子、豊泉三枝子、
大石徳幸、児玉和久、大友利哉、堀友輔、
中澤光代、長田英喜

発行：平成21年4月20日

国立病院機構 静岡てんかん・神経医療センター
〒420-8688 静岡市葵区漆山886

Tel: 054-245-5446 Fax: 054-247-9781

<http://www.shizuokamind.org>

Email: shizuoka@szec.hosp.go.jp

はじめて当院を受診される方へ

診察は予約制になっています。

1 受診のための手続きは…

予約は、ご本人・ご家族から当院医療連携室（054-246-4580）へ、あるいは主治医の先生から当院医療連携室へ申し込んでください。その際、ご本人の氏名・性別・生年月日・住所・電話・保護者氏名をお尋ねいたします。電話をいただきますと、その場で受診日を決め、折り返し当院からくわしい書類をお送りいたします。

2 セカンドオピニオンについて

セカンドオピニオンもお引き受けいたします。

3 紹介状について

現在すでに病院へかかっておられる方は、主治医の紹介状があることが望ましいですが、なくても結構です。紹介状がない場合は別途費用（2,625円）がかかりますので、ご了解ください。病院からの資料もあれば望ましいですが、なくても結構です。

4 緊急を要する時は…

受診日は病状に応じてできるだけ対応いたしますので、緊急を要する時はその旨をご連絡下さい。

ACCESS 当院へのアクセス

バスをご利用の場合	JR静岡駅前、北口バスターミナル2番線より静岡鉄道バスにて、こども病院線「67こども病院・国立神経医療センター」行に乗車、終点の「国立神経医療センター」で下車。全所要時間は約30分。片道料金は大人350円、小児180円。
タクシーをご利用の場合	JR静岡駅前（北口）より乗車。所要時間は約20分。料金は2200円程度
お車の場合	東京方面から 東名高速清水インターより、静清バイパスを静岡方面に向かい、千代田・上土出口から流通センター通りを北へ数分。所要約20分。
	名古屋方面から 東名高速静岡インターより、国道1号線を清水方面に向かい、長沼交差点を左折、流通センター通りを北へ数分。所要約30分。



イベント情報

- **てんかん学研修セミナー**（成人医師対象）
2009年8月
於：静岡てんかん神経医療センター 3階講堂
詳細はホームページに掲載します。
- **専門職のためのてんかんセミナー**（てんかんをもつ小児に関わる専門職対象）
2009年8月
於：静岡てんかん・神経医療センター 3階講堂
詳細はホームページに掲載します。

本

- **アトラス てんかんの発作間欠時・発作時脳波を読む**（診断と治療社、2007年）
てんかん症候群におけるあらゆる病態の脳波記録を網羅的に掲載し、それぞれについて詳細でわかりやすい脳波判読のしかたを解説しています。
- **てんかん症候群：乳幼時・小児・青年期のてんかん学**（中山書店、2007年）
世界で愛読されているてんかんの教科書です。典型的な発作DVDが付属しています。
- **外科てんかん学入門：脳の働きをうかがい知る**（新樹会創造出版、2008年）
当院医師の執筆によるてんかん外科治療の包括的な教科書です。
- **抗てんかん薬ポケットブック**（日本てんかん協会、2008年）
抗てんかん薬のわかりやすい解説書です。

てんかん情報センターのご案内

てんかんに関するさまざまな情報を集積したセンターが外来棟1階にあります。どうぞご利用ください。次の活動を行っています。

- 1 てんかんに関する書籍・雑誌・ビデオなどの閲覧・貸し出し（自己学習）
- 2 ホームページによる情報提供
- 3 てんかん協会との連携
- 4 医療などの相談（予定）